



令和8年3月30日
中部地方整備局

道路脱炭素化推進計画を作成しました！

～産業を支える企業や地域と連携し道路脱炭素化を推進～

◆概要

令和7年4月の道路法改正により、道路管理者が協働して脱炭素化を推進するため、国の道路脱炭素化基本計画に基づき、道路管理者が道路脱炭素化推進計画を策定する枠組みが導入されました。

これに基づき、中部地方整備局は、道路脱炭素化推進計画を策定しました。

道路脱炭素化に資する対策に積極的に取り組むべく、地域と連携しながら目標の達成を目指します。

◆資料

別紙参照

https://www.cbr.mlit.go.jp/road/carbon_neutral_plan/index.html

◆配布先

中部地方整備局記者クラブ

◆問い合わせ先

中部地方整備局 道路部 計画調整課 課長 竹村 美利 (たけむら みとし)
課長補佐 村松 道康 (むらまつ みちやす)
TEL : 052-953-8171 (直通)

中部の原動力は地域連携～ものづくりの知恵と、みちづくりの技術で進める道路脱炭素～

- 道路法等の改正（R7.4公布、施行）により、国の道路脱炭素化基本方針に基づき、道路管理者が道路脱炭素化推進計画を策定する枠組みを導入。
- 中部地方整備局では、産業を支える企業や地域と連携し、脱炭素に資する取り組みを推進する計画を策定。

中部地整 道路脱炭素化推進計画の目標

■ 道路管理分野の目標

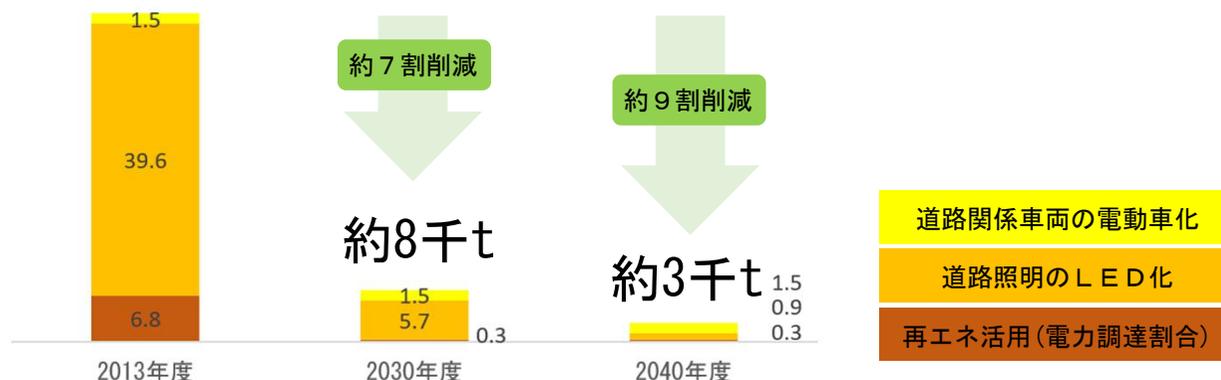
- 道路照明のLED化と道路関係車両の電動車化は2030年度までに100%、再生可能エネルギー活用電力利用割合は2030年度までに60%、2040年度までに80%を目指します。
- 道路管理分野全体におけるCO2の排出削減目標は、2030年度に約8割削減、2040年度までに約9割削減を目指します。

■ 道路整備分野、道路利用分野の目標

- 道路の脱炭素化に貢献するため、CO2排出削減に資する取り組みを積極的に推進します。

■ 道路管理分野のCO2削減目標

約48千t



中部の脱炭素化に向けた施策内容

■ 道路管理分野

- 道路関係車両の電動車化
- 道路照明のLED化
- 道路管理における再生エネルギー活用
- 道路空間への太陽光発電施設の導入

■ 道路整備分野

- 低炭素建設機械の導入促進
- 低炭素アスファルト/低炭素型コンクリートの導入促進
- 予防保全による長寿命化の推進
- 道路緑化

■ 道路利用分野

- SA・PAや道の駅でのEV急速充電の設置促進
- 自動車の廃バッテリーを活用した道路付属施設
- 自転車利用促進
- 歩行空間の整備
- モビリティハブ等の交通結節点の整備
- ダブル連結トラックの利用環境の整備
- 主要渋滞箇所における渋滞対策
- TDMの実施
- 立体交差化や踏切等迂回路整備等の推進
- 路上工事の縮減による交通渋滞の緩和

■ その他の取り組み

- 脱炭素化施設等の設置
- 道路協力団体との連携
- 日本風景街道との連携
- ネイチャーポジティブ政策の推進
- サーキュラーエコノミー政策の推進

地域との連携 取り組み事例

■「道の駅」で自動車の使用済みバッテリーの再利用

- 「道の駅」にて地元の企業と連携し、使用済みの自動車バッテリーを蓄電池として再利用する実証実験を道の駅で実施します。
- 災害時などに停電した際にも、避難所等としての機能が確保できるような施設を整備します。
- 将来的には、商用電源に頼らない「ゼロ・エミッション道の駅」を目指します。



■自転車の利用促進

- 安全で快適な自転車通行空間の整備を推進することで、自動車利用から自転車利用の転換を図ります。
- 名古屋市内をモデル地区として設定し、自転車の実走行実験を実施しました。車体に取り付けたデータや被験者からのアンケート調査などから、自転車の走りやすい道路を可視化させ、「走りやすさマップ」を作成し、一般向けに提供を目指します。



◆アウトプットイメージ（走りやすさのマップ）



■TDM（交通需要マネジメント）の実施

- 通勤手段の変更、通勤時間帯の変更、在宅ワークの活用など、地域の企業と連携し通勤時間帯の渋滞緩和を目指します。
- 観光客が多い市街地部では、慢性的な渋滞が発生しています。市街地部を通過する車両を迂回ルートに転換することで渋滞緩和を目指します。



■ネイチャーポジティブ

- 道路の未利用地（岐阜県高山市内のインターチェンジ）に動植物の生育環境を守るため、ビオトープを設置しました。
- 近隣の高校と協定を締結し、学生と共に環境創生に取り組んでいます。
- 道路と自然の共存を目指すため、天然記念物のニホンカモシカの生息域などに、ドライバーへの注意喚起対策としてカーナビでお知らせするシステムの運用を検討します。



生物の調査

この先、動物の飛び出しが多い場所です。速度を落とすなど、注意して走行してください。



※画像はイメージです